



# 牛乳・乳製品

## ◆飼養動向

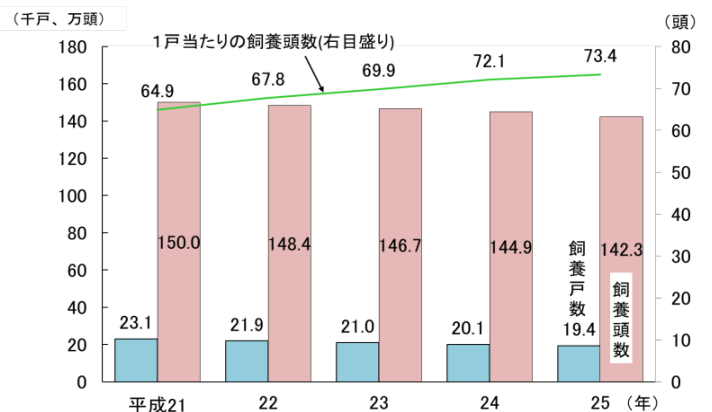
### 25年2月現在の乳用牛飼養頭数、1.8%減少

乳用牛の飼養頭数は、5年以降、減少傾向で推移しており、24年2月は144万9000頭(前年比1.2%減)であった。25年2月には142万3000頭(同1.8%減)となり、前年をわずかに下回った。

飼養戸数は、飼養者の高齢化や後継者不足による廃業に加え、東日本大震災等の影響や、さらには配合飼料価格の上昇による収益性の低下などを受け、25年には、前年を700戸下回る1万9400戸(同3.5%減)となった。

こうした結果、25年の1戸当たりの飼養頭数は、前年をわずかに上回る73.4頭(同1.8%増)となった(図1)。

図1 乳用牛の飼養戸数、頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

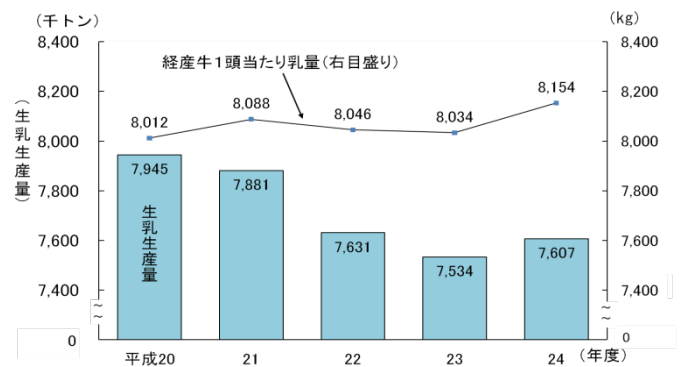
注：各年2月1日現在。なお、25年は概数値

## ◆生乳生産量

### 24年度の生乳生産量、1.0%増加

生乳生産量は、8年度に約870万トンでピークとなり、その後、都府県における減少により、低下傾向で推移してきた。23年度は、前年の猛暑や東日本大震災等の影響があり、753万3900トン(前年度比1.3%減)と減少した。24年度は、生産の回復がみられ、760万7400トン(同1.0%増)と、7年ぶりに前年度を上回ったが、長期的には漸減傾向にある。一方、経産牛1頭当たりの乳量は、2年連続で減少していたが、24年度は8,154キログラム(同1.5%増)と、わずかながら増加に転じた(図2)。

図2 生乳生産量と経産牛1頭当たり乳量(全国)



資料：農林水産省「畜産統計」、「家畜の飼養動向」及び「牛乳乳製品統計」

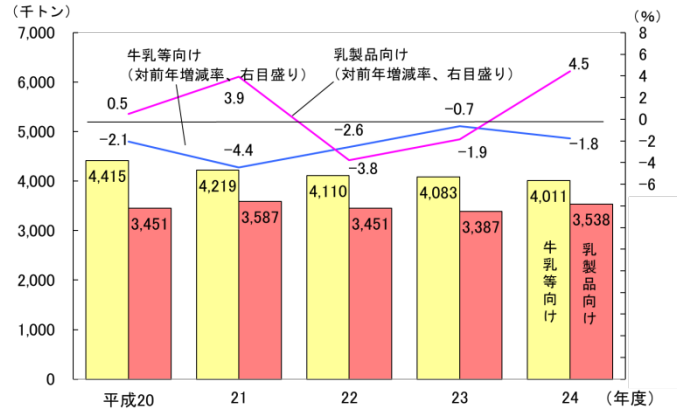
注：24年度の生乳生産量、経産牛1頭当たり乳量は概数値

### ◆牛乳等向け処理量

#### 24年度の牛乳等向け処理量、1.8%減

生乳の牛乳等向け処理量は、その消費動向を反映して推移しているが、近年は、少子高齢化やその他飲料との競合などから消費が伸び悩んでおり、6年度をピークに減少傾向で推移している。23年度は、東日本大震災による電力不足を受け、乳業メーカーが製造アイテムの絞込みを行った結果、牛乳の生産量は一時的に増加したものの、成分調整牛乳などは減少した。24年度は、牛乳、成分調整牛乳などのいずれも生産が減少したことから、牛乳等向け処理量は401万700トン(前年度比1.8%減)となり、10年連続で減少した(図3)。

図3 用途別処理量



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

注：24年度は概数値

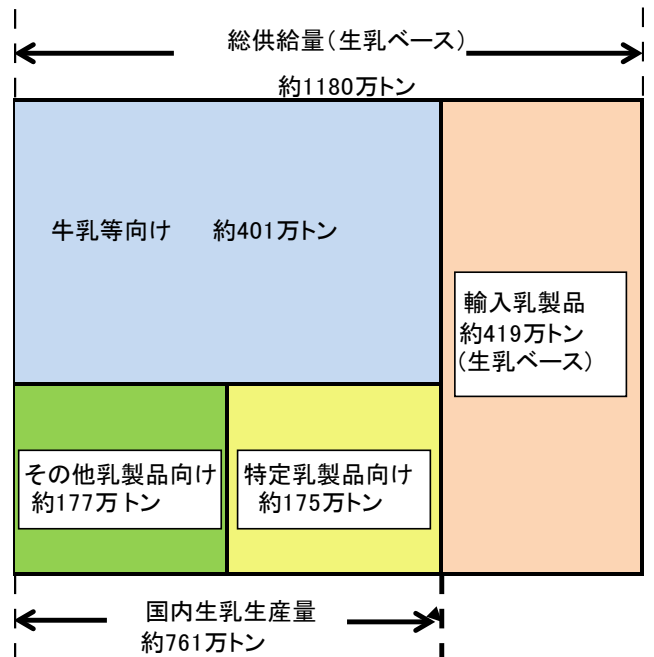
### ◆乳製品向け処理量

#### 24年度の乳製品向け処理量、4.5%増加

生乳生産量が減少する中、乳製品向け処理量は、19～21年度の3年間、増加傾向で推移したが、22年度は、345万1200トン(前年度比3.8%減)と4年ぶりに前年度割れとなり、23年度も338万7300トン(同1.9%減)と引き続き前年度を下回った。しかし、24年度は、生乳生産量の回復に伴い、353万8100トン(同4.5%増)とやや増加した。また、クリーム等向け処理量は、堅調な需要を反映して127万6100トン(同2.1%増)と3年連続の増加となった。

こうした結果、24年度の総供給量は、国内生乳生産が約761万トン、輸入乳製品(生乳ベース)が約419万トンとなった(図4)。また、国内生産量のうち、牛乳等向け処理量の割合(市乳化率)は、52.7%と過去20年間で最も低くなっている。

図4 生乳の需給構造の概要(24年度)



資料：農林水産省生産局「畜産・酪農をめぐる情勢」

注1：四捨五入の関係で、必ずしも計が一致しないことがある

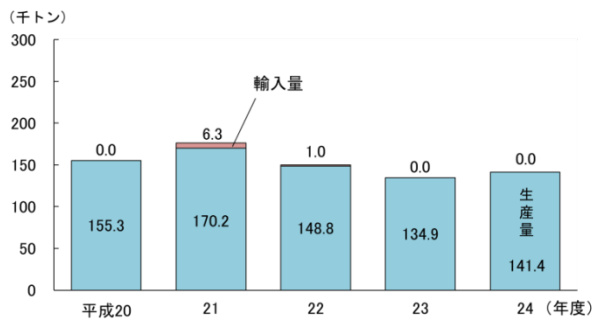
注2：国内生乳生産量の中には、このほか自家消費等に仕向けられたものがある

◆脱脂粉乳

24年度末在庫量は3.9%増加、大口需要者価格は上昇

脱脂粉乳の生産量は、生乳生産量の減少に加え、需要がフレッシュな脱脂濃縮乳に置き換わりつつあることなどから、22年度と23年度の2年連続で前年度を下回った。24年度は、生乳生産量が回復したことから、14万1400トン(前年度比4.8%増)とやや増加し、3年ぶりに前年度を上回った(図5)。

図5 脱脂粉乳の生産量・輸入量

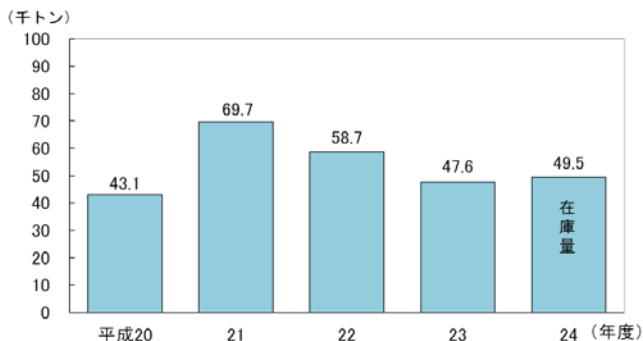


資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

注：輸入量は機構輸入分のみ。なお、24年度は概数値

一方、期末在庫量は、22年度からは生産量の減少もあり、23年度まで2年連続で前年度を下回った。24年度末の期末在庫量は、生産量の増加の影響を受け4万9500トン(同3.9%増)となり、3年ぶりに前年度を上回った(図6)。

図6 脱脂粉乳の期末在庫量



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

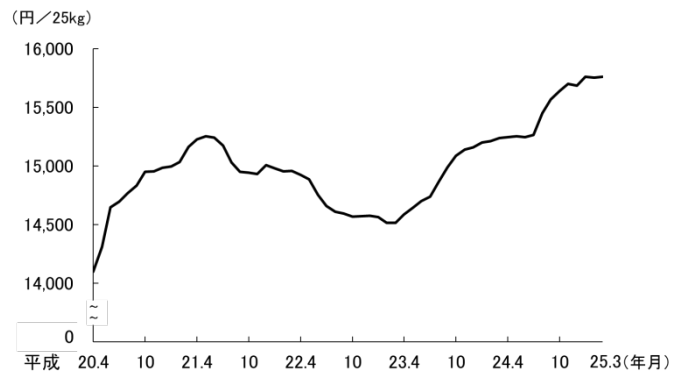
注：24年度は概数値

24年度の推定出回り量は、価格上昇による需要の減少や、脱脂濃縮乳への置き換えなどの影響を受け、13万9600トン(同4.4%減)とやや減少した。なお、カレントアクセス分の輸入は行われなかった。

脱脂粉乳の大口需要者価格は、20年度は乳製品の国際需給が逼迫したことから高水準で推移した。

21年度と22年度は、国内の在庫量が高い水準にあったことから、価格も一旦は低下傾向にあったが、23年度に入ると、年度平均が25キログラム当たり1万4962円(同2.2%増)と上昇に転じ、24年度平均は同1万5526円(同3.8%増)となった(図7)。

図7 脱脂粉乳の大口需要者価格



資料：農林水産省生産局調べ

注：消費税を含む

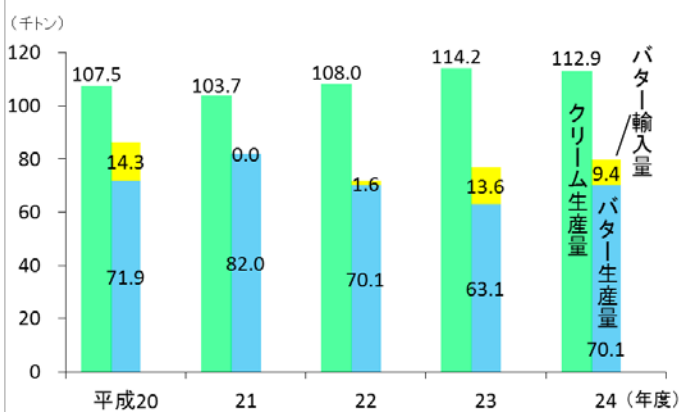
◆バター・クリーム

バターの24年度末在庫量は23.0%増加、大口需要者価格は上昇

バターの生産量は、23年度は、猛暑や東日本大震災の影響などから生乳不足となった結果、6万3100トン(前年度比10.1%減)とかなりの程度減少した。24年度は、生乳生産量が回復したことから、7万100トン(同11.2%増)と増加した。

クリームの生産量については、23年度は、コンビニ向けデザート類などの需要拡大を背景に、11万4200トン(同5.8%増)と堅調に推移したが、24年度は11万2900トン(同1.2%減)となり、3年ぶりに前年度を下回った(図8)。

図8 バター、クリームの生産量



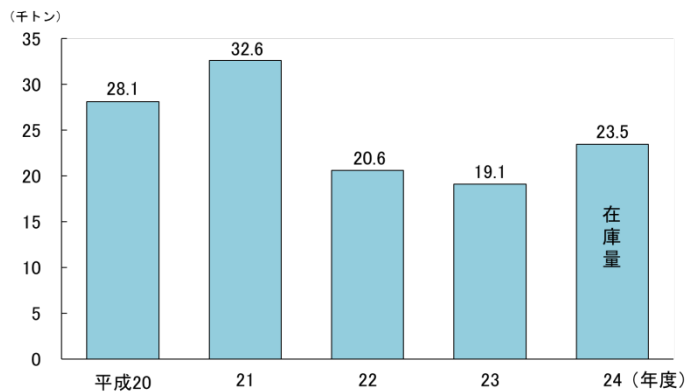
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」  
注：24年度は概数値

バターの23年度末在庫量は、生産量の減少などを反映し、前年度を1,500トン下回る1万9100トン(前年同期比7.4%減)となった。24年度は、生産量が回復したことやバター輸入を実施したことなどから、在庫量は2万3500トン(同23.0%増)と、3年ぶりに前年度を上回った(図9)。24年度の推定出回り量は、価格上昇による需要の減少により、7万5100トン(同3.9%減)と、前年度と比べやや減少した。

なお、24年度のカレントアクセス分の輸入量は7,403トン

であった。また、バターの大口需要者価格が上昇傾向にあり、在庫水準も低かったことから、年末の最需要期に安定的な供給を確保するため、2年連続となる2,000トンの追加輸入を実施した。

図9 バターの期末在庫量

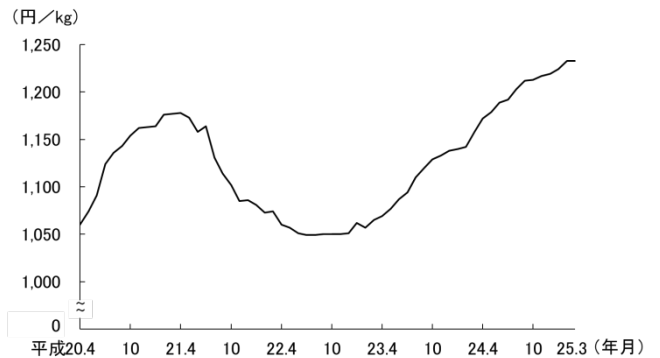


資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

バターの大口需要者価格は、21年度に生産量、在庫量ともに増加したことから、3年ぶりに前年割れとなった。22年度は、ほぼ横ばいで推移したが、23年度は、在庫量が低い水準となったことから上昇傾向に転じ、年度平均は1キログラム当たり1,116円(同5.9%増)となった。24年度も上昇傾向は続き、年度平均は同1,207円(同8.1%増)となった。

(図10)

図10 バターの大口需要者価格



資料：農林水産省生産局調べ  
注：消費税を含む

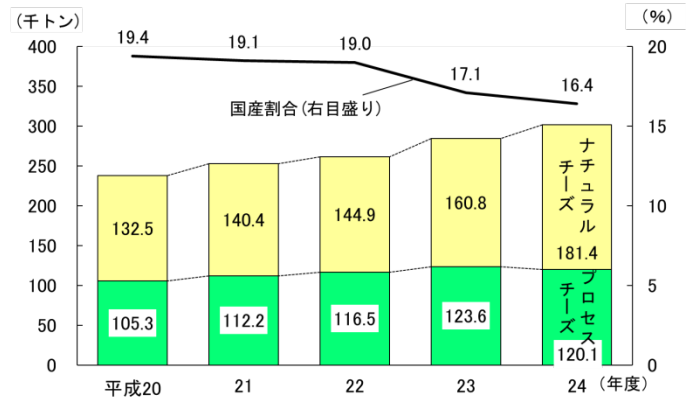
◆チーズ

24年度の総消費量、6.0%増加

チーズの総消費量と国産割合

チーズの総消費量は、20年度は、国際価格高騰や、世界的な経済不況により、家庭用や外食用の消費が冷え込んだことから、一時的に落ち込んだ。しかし、21年度は、国際価格が低下し輸入量が増加したことに加え、製品価格の値下げや内食化の進展もあり、需要の回復がみられた。22年度、23年度も国産の生産割合は小さくなりつつも、総消費量は増加傾向で推移した。24年度は、ナチュラルチーズ消費量が、過去最高の18万1400トン(前年度比12.8%増)とかなり大きく増加し、プロセスチーズ消費量が、12万100トン(同2.8%減)とわずかに減少した結果、合計は30万1500トン(同6.0%増)となり、過去最高の水準となった。(図11)。

図11 チーズの総消費量と国産割合



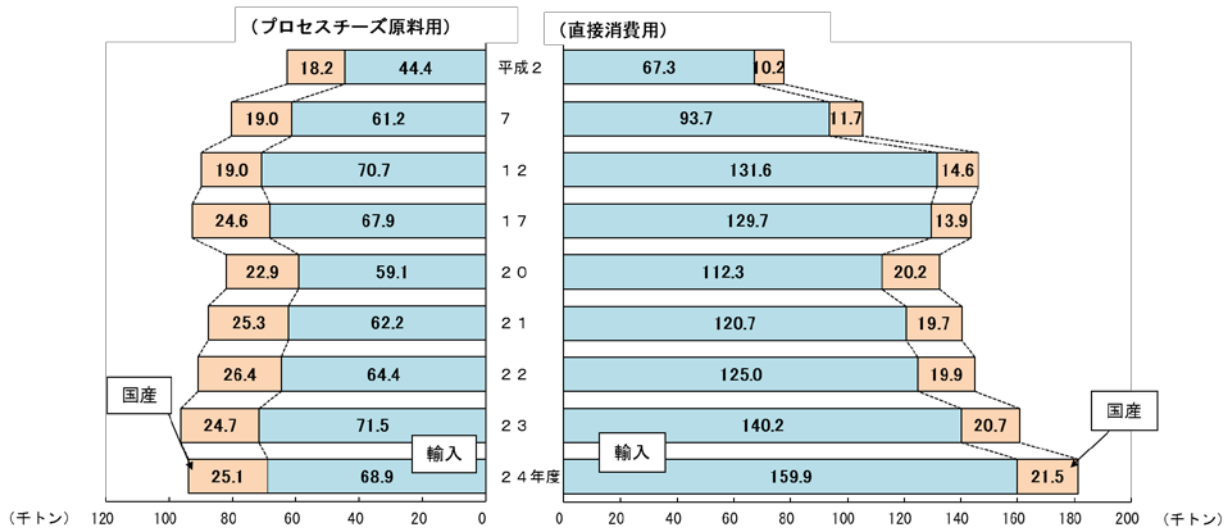
資料：農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課「チーズの需給表」

ナチュラルチーズの生産量・輸入量

24年度のナチュラルチーズの輸入量(プロセスチーズ原料用+直接消費用)は、プロセスチーズ原料用は、6万8900トン(前年度比3.8%減)とやや減少したものの、直接

消費量は、15万9900トン(同14.1%増)とかなり大きく増加したことから、24年度は22万8800トン(同8.1%増)と、4年連続の増加となった(図12)。

図12 ナチュラルチーズの生産量・輸入量



資料：農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課「チーズの需給表」

国産ナチュラルチーズの生産量(プロセスチーズ原料用+直接消費用)は、需要の拡大を背景におおむね堅調に推移しており、22年度は、北海道のチーズ工場が生産能力を増強したこともあって、6年連続で前年度を上回った。23年度は、生乳需給が逼迫基調で推移したことから減少に転じ

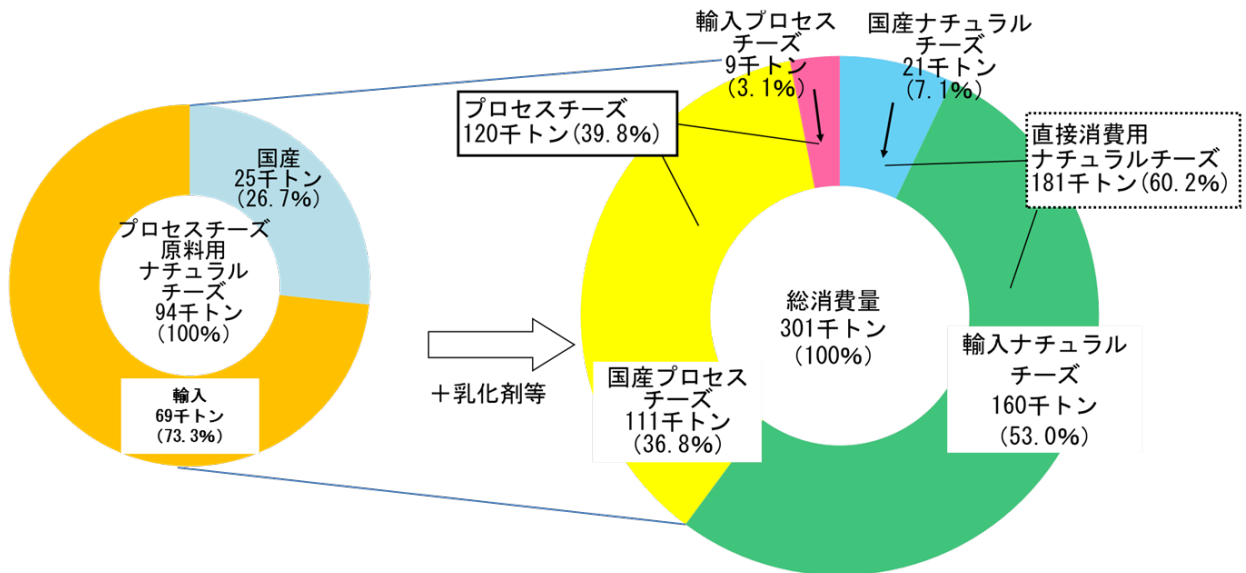
たものの、24年度は、プロセスチーズ原料用が2万5100トン(同1.3%増)、直接消費用が2万1500トン(同3.7%増)とそれぞれ前年度を上回ったことから、4万6500トン(同2.4%増)と、わずかではあるが再び増加した。

### チーズ総消費量

24年度のチーズ総消費量における国産チーズの割合は、国産チーズ生産量の伸び以上に輸入量の伸びが大きかったことから16.4%となり、前年度より0.7ポイント低下した。

また、プロセスチーズ原料用に占める国産の割合は、26.7%と1.0ポイント上昇した。

図13 24年度のチーズ総消費量の内訳



資料：農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ

注：直接消費用ナチュラルチーズとは、プロセスチーズ原料用以外のものを指し業務用その他原料用を含む

## ◆アイスクリーム

### 24年度の生産量、0.5%減少

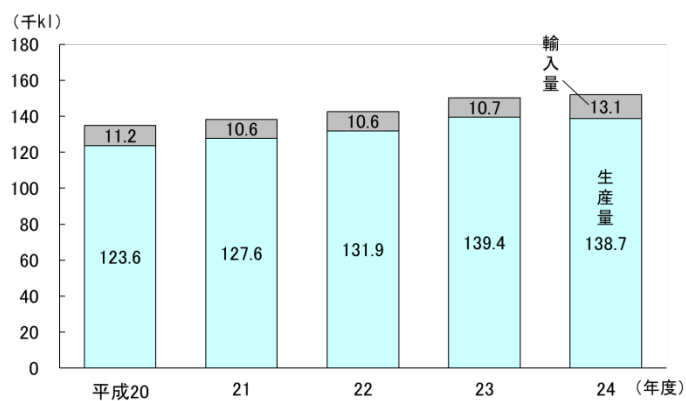
アイスクリームは、近年、豊富な品揃えにより、購買頻度が高まっている。24年度の実生産量は、13万8700キロリットル(前年度比0.5%減)と、5年ぶりに前年度を下回ったもの

の、依然として高い水準となっている。

輸入量は、輸入価格の上昇を背景に、22年度の1万600キロリットル(同0.2%減)まで6年連続で減少していたが、

23年度に1万700キロリットル(同1.4%増)と増加に転じ、  
24年度は、1万3100キロリットル(同22.5%増)と大幅に増加した(図14)。

図14 アイスクリームの生産量と輸入量



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、財務省「貿易統計」  
注：輸入量は、1t=1.455klで換算。なお、24年度は概数値